

化学物質と環境について知ろう

— 私たちの生活とのかかわりから —



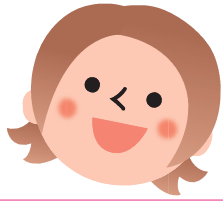
パンフレットの作成にあたって

環境をよくするために、そして化学物質による環境汚染を減らしていくためには、私たちは何を知り、何をしていけばよいのでしょうか。このパンフレットは、それについて考えるきっかけになるように、市民や事業者の方の意見を取り入れながら作成しました。

なお、**レベルアップ**の枠には、少し難しい内容を記載しました。ここを読まなくても、パンフレットの内容が分かるように作成しています。

目次

- 化学物質ってな～に？ 1 ページ
- 私たちの身の回りではどんな化学物質が使われているの？ 2 ページ
- 便利な化学物質が空気や水を汚すって本当？ 3、4 ページ
- 空気や水の中に化学物質はどれだけあるの？ 5 ページ
- 環境が化学物質で汚されると、私たちにどのようなことが起こるの？ 6 ページ
- 化学物質が体にとりこまれると、どんな影響があるの？ 7、8 ページ
- 化学物質ってそんなに悪者？ 私たちの体は大丈夫？ 9、10 ページ
- 化学物質のリスクを避けることはできるの？ 11 ページ
- 化学物質のリスクを減らすために、私たちには何ができるの？（家庭編） 12 ページ
- 化学物質のリスクを減らすために、私たちには何ができるの？（社会編） 13、14 ページ



化学物質ってな～に？

私たちの身の回りのものは、すべて化学物質でできています。

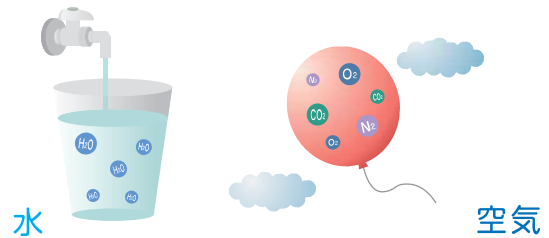
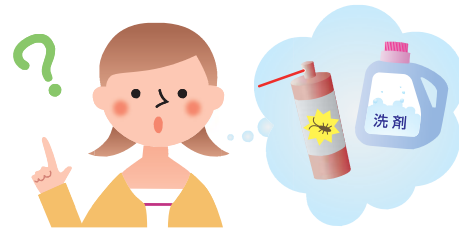
「化学物質」ときいて、何を思い浮かべますか？
実は身の回りのものはすべて化学物質でできています。

ペンキ、殺虫剤、洗剤のような製品だけではありません。たとえば、水は H_2O という化学物質が集まったもの、空気は酸素 (O_2) や窒素 (N_2)、二酸化炭素 (CO_2) などの化学物質が混ざっているものです。人の体もいろいろな化学物質が集まって作られています。

人は、それらの化学物質の性質をいかして、さまざまな用途に利用し、生活を便利で豊かなものにしてきました。

しかし、今、その化学物質が人や動植物に及ぼす影響が心配されています。私たちは、どうしたら化学物質とうまく付き合っていけるのか、考えてみましょう。

「化学物質」？



レベルアップ

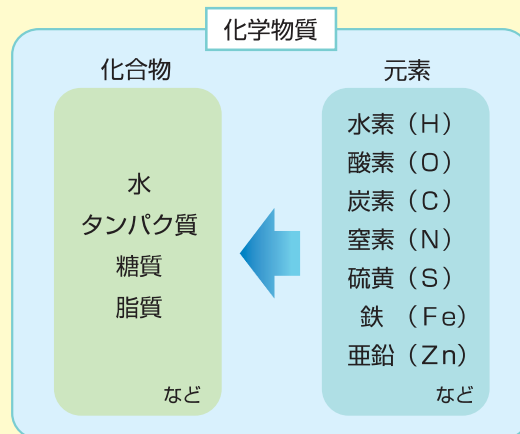
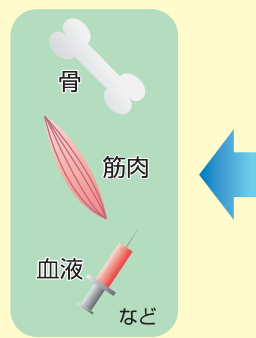
「化学物質」とは「元素及び化合物」

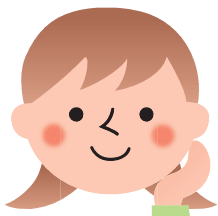
「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）」によると、化学物質は「元素及び化合物」とされています。

物質を化学的に分解していくと、それ以上分けられない「元素」になります。元素が2種類以上化学的に結合すると、「化合物」になります。



人の体



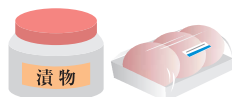


私たちの身の回りでは どんな化学物質が使われているの？

私たちの生活のさまざまな場面で、それぞれの性質をいかしてたくさんの化学物質が使われています。

食品

安息香酸ナトリウム、
食用赤色2号など
(食品添加物)



防虫剤

パラジクロロベンゼン、
ピレスロイドなど



家庭用殺虫剤

ピレスロイドなど



衣料品

ポリエステルなど
(化学繊維)
テトラクロロエチレンなど
(ドライクリーニング)



自動車

ベンゼン、
トルエンなど
(燃料)



私たちの生活の中にある 主な化学物質

化粧品や洗剤

パラベンなど
(殺菌剤、防腐剤)
LAS など (界面活性剤)



家電製品

アルミニウム、
鉄など (金属類)

医薬品

アセトアミノフェンなど



塗料・接着剤

トルエン、
キシレンなど (溶剤)



人は、自然の中から便利な性質を持つものを見つけ、その性質がそこに含まれる化学物質によるものであることを発見しました。そして、同じような性質を持つたくさんの化学物質を作り出しました。

原料や製品など、いろいろな形で身の回りに使われている化学物質は約 5 万種といわれており、いまや私たちの生活になくてはならないものになっています。

レベルアップ

家庭用殺虫剤の歴史

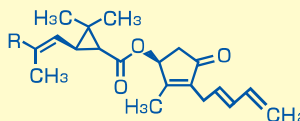
約 300 年前のヨーロッパで、庭の花の周りで虫が死んでいるのを発見し、その乾花を粉にして使用。



日本で、除虫菊(和名：シロバナムシヨケギク)を線香に練り込んで、使用時間を延ばす方法を考案。



殺虫成分のピレトリンを発見。



ピレトリンに似た化合物(ピレスロイド)を開発し、用途を拡大。

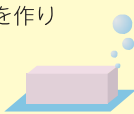


石けん・洗剤の歴史

古代ローマ時代、神に供える羊を焼く際にしたり落ちた油と、木の灰(アルカリ)が混ざり合い、それが汚れを落とすことを発見。



植物油(オリーブオイル)と海藻の灰から石けんを作り始めた。



油の中の脂肪酸と灰の中のアルカリが反応して石けんができることを発見。

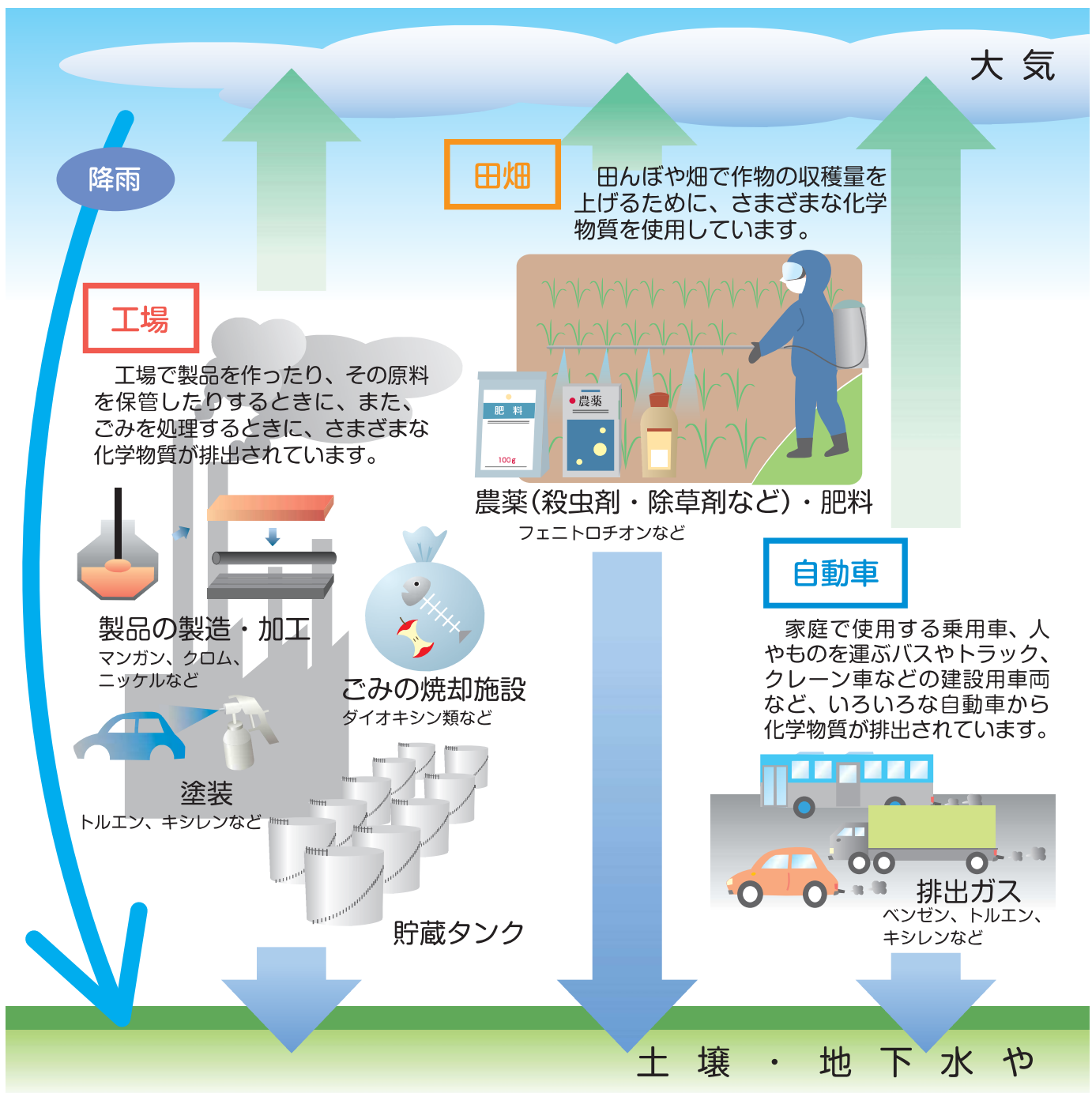
石けんの性質(界面活性効果)を利用して、合成洗剤を開発。



身の回りにはどんな化学物質が使われているのか、ラベルを見て確かめてみよう。



便利な化学物質が空気や水を汚すって本当？

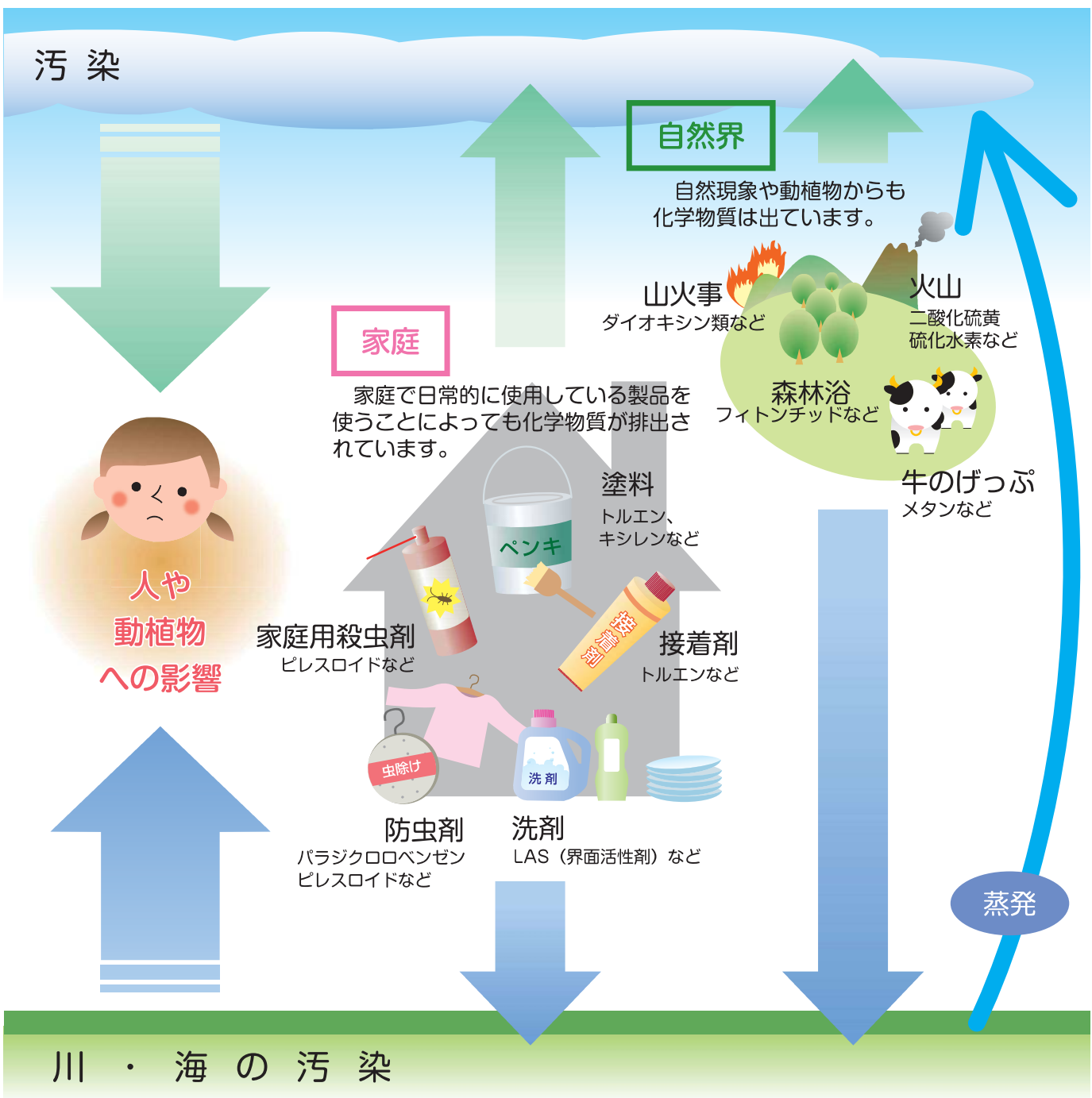


環境汚染の経路と発生源

化学物質は、製造、使用、廃棄などのさまざまな場面で、環境中に排出されています。また、事故などによって一度に多量に放出されることもあります。大気中に排出された化学物質は、雨といっしょに、土に付着したり川や海に流れ込んだりします。川や海に排出されると、気化して大気中にでていくこと

もあります。そのような経路の途中で、一部は光や微生物などによって分解されますが、分解されなかった物質は環境中に残ります。排出量が増えると環境中に残る量も増え、人や動植物にとって好ましくない環境になってしまいます。

さまざまな化学物質が使われるようになると、それを製造したり使用したりするときに、多くの化学物質が排出され、環境中に広がっていくようになりました。どのような場面で化学物質が排出されているのかを見てみましょう。



レベルアップ

化学物質の寿命

化学物質が環境中で分解されるまでの時間は物質により違い、数秒のものから数十年に及ぶものまであります。その性質を「分解性」と呼びます。

分解されにくい物質は、一度排出されると、いつまでも環境に残ります。そのような物質は「難分解性物質」と呼ばれます。



どのような化学物質をどのように使用しているかなど、工場のパンフレットやホームページを見たりして調べてみよう。



空気や水の中に化学物質は どれだけあるの？

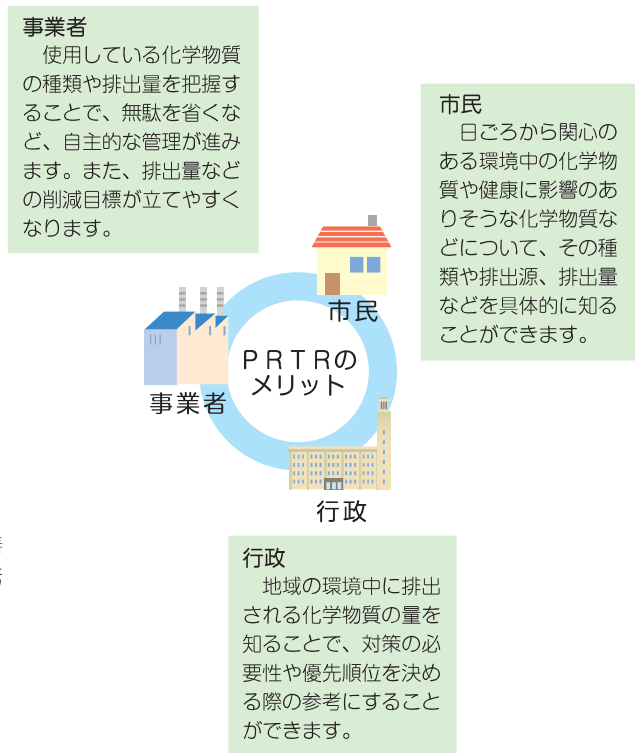
化学物質の種類が多すぎて、すべてを調べることはできません。そこで、国や自治体は、優先順位をつけて、環境に排出される量と環境に含まれる量を調べています。

● 環境への排出量を知る方法

PRTR^{*1}(ピーアールティーアール)という仕組み(PRTR制度)により、化学物質の排出量を知ることができます。

- 事業者は法律に定められた化学物質^{*2}の環境への排出量を把握し、行政機関に年1回届け出ます。
- 国は、届出対象外(小規模事業所、農業、家庭、自動車など)からの排出量を推計します。
- 各行政機関は、これらのデータを公表し、化学物質に関する情報を市民に普及させます。

この取組により、市民、事業者、行政には、右の図に示すようなメリットがあるといわれています。

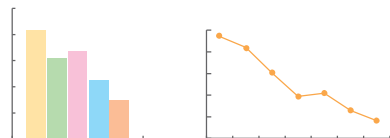


※1 Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度)
 ※2 「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)」により、国内の製造や環境汚染の状況を考慮して定められた物質

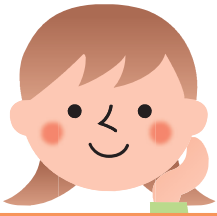
● 環境に含まれている量を知る方法

環境に含まれている量を知るには、環境濃度の測定が必要です。

川崎市は、大気や水の化学物質の環境濃度を測定して、環境に含まれている化学物質の量を調査しています。



川崎市における化学物質の排出量や環境濃度については、市役所のホームページを見たりして調べてみよう。



環境が化学物質で汚されると、 私たちにどのようなことが起こるの？

環境中の化学物質の一部は、さまざまな経路で私たちの体にとりこまれて
しまいます。どのような経路で体にとりこまれ、その化学物質は体の中で
どうなるのでしょうか？

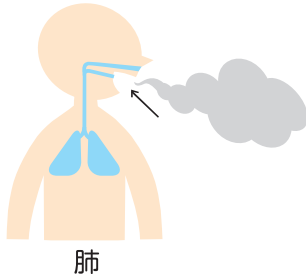
● 摂取経路

大気中の化学物質は、呼吸により人や動植物にとりこまれます。川や海の中の化学物質は、その周りで生息する動植物にとりこまれ、人がその動植物を食物としてとりこむと、そこに含まれる化学物質も

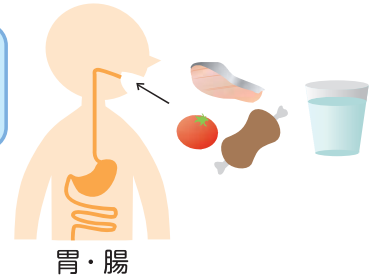
同時にとりこまれます。

このように、環境中の化学物質を体にとりこむことを「暴露する」といいます。

呼吸により
化学物質を
とりこむ



食事により
化学物質を
とりこむ



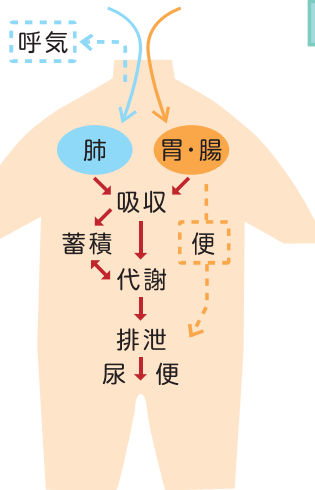
● 体内での運命

吸収

化学物質が肺や胃に入ると、その一部は肺胞や胃壁、腸壁などから血液中にとりこまれます。これを「吸収」と呼びます。吸収されなかった化学物質は、呼気や便として体外に出ていきます。

蓄積

体内にとりこまれた化学物質で、例えば油に溶けやすく代謝されにくい物質などは、脂肪組織の中にたまり、排泄されることがあります。これを「蓄積」と呼びます。



代謝

血液中にとりこまれた化学物質は、肝臓などで酵素の働きにより、体内物質として活用しやすい物質や、不要物として体外に排泄しやすい物質になります。これを「代謝」と呼びます。

母子間の移行

母親の脂肪に蓄積された化学物質が、母乳に含まれて乳児にとりこまれることがあります。

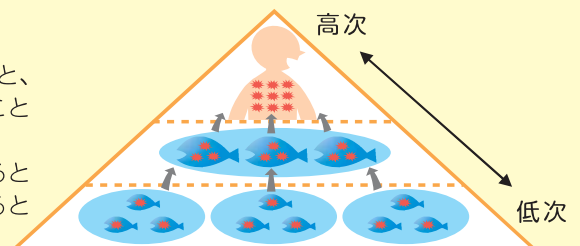
また、妊婦の血液中の化学物質が胎児の体にはいっていくこともあるといわれています。

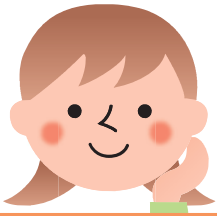
レベルアップ

化学物質の生物濃縮

生物が化学物質をエサなどと一緒に体内にくりかえしとりこむと、蓄積されやすい物質は、体内の濃度が環境中よりも高濃度になることがあります。この現象を「生物濃縮」といいます。

さらに、食物連鎖により高次に位置する生物に生物濃縮が起こるときには、より高濃度に濃縮され、自然状態の数千から数万倍になるといわれています。





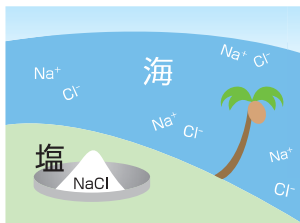
化学物質が体にとりこまれると、 どんな影響があるの？

化学物質が人や動植物に悪い影響を及ぼす性質のことを「有害性」といいます。有害性の程度の差はありますが、ほとんどの化学物質には何らかの有害性があります。それは、自然のものにも、人工のものにも同じことがいえます。化学物質にはどのような有害性があるのでしょうか？

● 化学物質の有害性の例

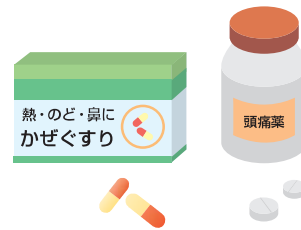
- 私たちの体になくてはならない化学物質でも、とりすぎると害になるものがあります。

例えば、塩は塩化ナトリウム (NaCl) という化学物質です。料理の味付けに重要であるだけでなく、私たちの体の機能の維持に重要な役割を持っています。しかし、とりすぎると高血圧などの病気を起こすおそれがあります。



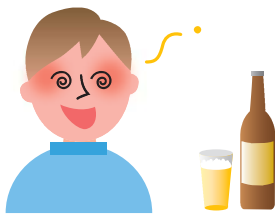
- 病気やけがを治すための薬には、必ず本来の目的とは異なる作用(副作用)があるといわれています。副作用が強くと、体に悪影響を与えることがあります。

例えば、風邪薬を飲んだあとに眠くなるのは、その薬の副作用です。



- 体の中で有害性の高い化学物質が作られることもあります。

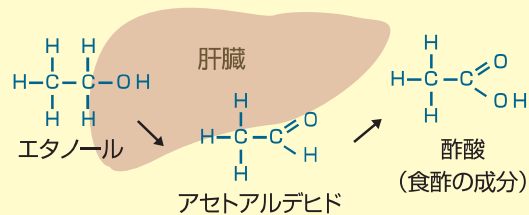
例えば、お酒の中のエタノールは、体の中でアセトアルデヒドという物質に変わります。この物質が、気分が悪い、頭が痛いなどの症状を引き起こします。



レベルアップ

● エタノールの代謝

エタノールは、酵素による代謝の作用で有害性の高いアセトアルデヒドに変化し、さらに、有害性の低い酢酸に変化します。有害性の低い化学物質が、代謝により有害性の高い物質に変化することもあります。



レベルアップ

● “自然” と “人工”

人工的に合成された化学物質は体に悪いイメージがありますが、実は、自然界にも有害性の高い化学物質があります。フグの毒はその一例で、テトロドトキシンという化学物質によるものです。

また、果物などの食品に含まれるビタミンCとして知

られている L-アスコルビン酸という化学物質は、現在は人工的にも合成されています。

つまり、自然から得られたものか人工的に合成されたものかではなく、その化学物質の性質を正しく理解して使用することが大切です。

● 化学物質の有害性が現れるまでの時間

化学物質が体にとりこまれ、有害性による影響が現れるまでの時間はさまざまです。

一度に多量の物質をとりこんですぐに影響が現れる場合、その有害性を「急性毒性」と呼びます。また、少量でも長い期間にわたってとりこむことによって影響が現れる場合は、「慢性毒性」と呼びます。

急性毒性の例：

- ・たばこの煙が目に入って痛い。
- ・一度に多量のお酒を飲んで急性アルコール中毒になる。

慢性毒性の例：

- ・長期間にわたる喫煙によって肺がんになる。
- ・毎日たくさんお酒を飲んで肝硬変になる。



レベルアップ

有害性の種類（人、動物の場合）

発がん性	動物の正常な細胞に作用して、細胞をがん化する性質です。
催奇形性	胎児に奇形を起こす性質です。
変異原性	遺伝に重要な情報をもつ DNA や染色体に作用して、悪影響を誘発させる性質です。遺伝毒性と呼ばれることもあります。
生殖毒性	親または子供の生殖能力へ有害な影響を及ぼす毒性です。（胚・胎児への障害を含みます。）
感作性	皮膚・気管等を刺激し、アレルギー様症状を起こす性質です。

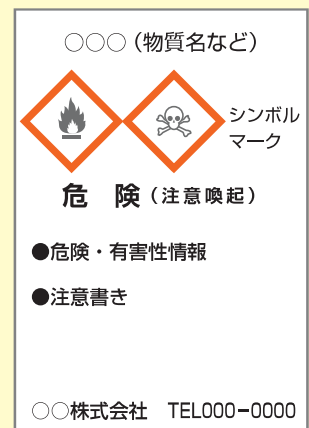
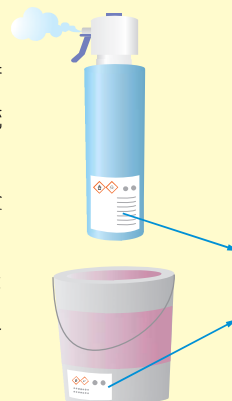


レベルアップ

GHS

GHS（ジーエイチエス）は、Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals の略称で、世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステムのことです。

GHS の導入により、化学物質の取扱いに注意を払うことで事故などを減らし、また、化学品を購入するときに、シンボルマークを見れば危険有害性の種類と程度が判断できるようになります。



GHSラベルの例



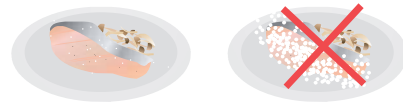
化学物質ってそんなに悪者？ 私たちの体は大丈夫？

化学物質にはさまざまな有害性があることが分かりました。では、私たちの体への影響はないのでしょうか。それを知るためには、化学物質の有害性だけでなく、化学物質が体にとりこまれる量の両方をあわせて考えることが必要です。

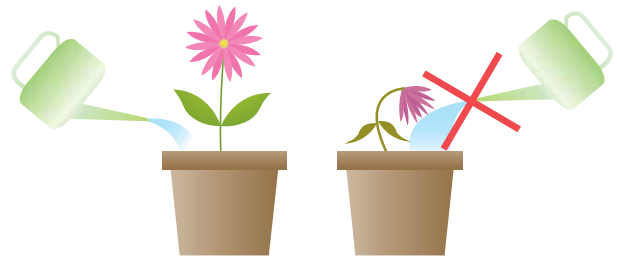
● 化学物質のリスク

塩が、少量であれば私たちの体に悪い影響を与えることがないように、化学物質が悪い影響を与えるかそうでないかは、化学物質の有害性だけでなく、体にとりこむ量（暴露量）も重要になります。

また、それは私たちの体だけではなく、動物や植物にも同じことがいえます。



塩分の摂りすぎは体に悪い。



水のやりすぎは根腐れを起こす。

化学物質の有害性と暴露量で表すことのできる、“悪い影響を及ぼす可能性”を「リスク」と呼びます。

化学物質による悪い影響を考えると、**「リスク」**を考えることが大切です。

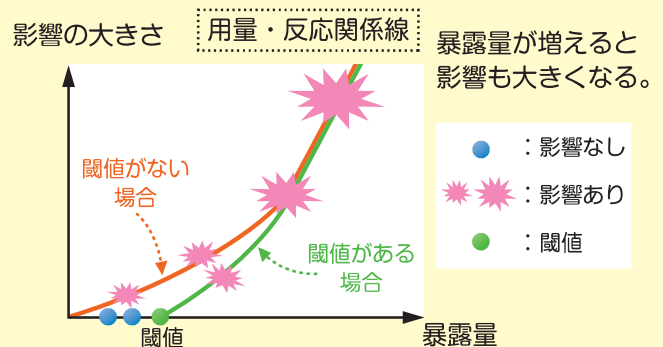


レベルアップ

影響が出ない量（^{いきち}閾値）

暴露量が、ある量の値よりも少なくなると影響が全く出なくなることがあります。このとき、その値を「閾値」と呼びます。

閾値の有無、大きさは化学物質の性質によって異なります。特に、発がん性には閾値がないことがあります。つまり、この場合、暴露量がゼロにならない限り、この物質を原因とする発がんの確率はゼロにはなりません。



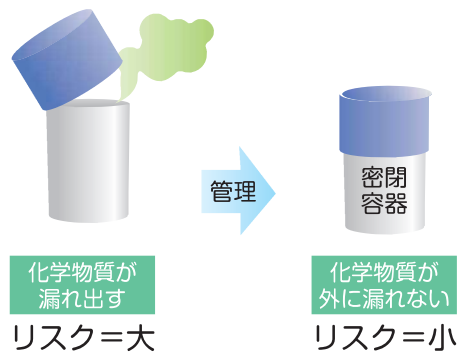
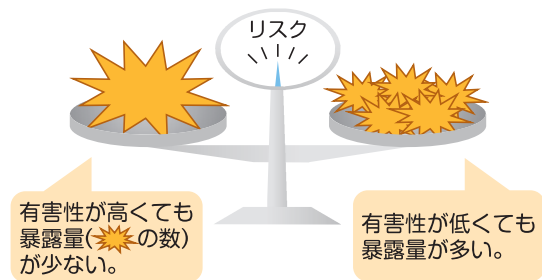
● リスク管理（リスクマネジメント）

有害性が高い化学物質でも、暴露量が少なければリスクは小さくなります。逆に、有害性が低くても、暴露量が多ければリスクは大きくなります。

また、例えば、化学物質をふたの開いた容器で保管すると、その性質によっては外に漏れだして暴露する可能性が高まるので、リスクが大きくなります。しかし、密閉容器で保管すれば、容器の破損の可能性を考慮しても暴露の可能性が低くなるので、リスクも小さくなります。

つまり、化学物質の取扱い方法を工夫すれば、リスクを小さくすることができます。このような考え方で化学物質の取扱い方法を管理することを、「リスク管理（リスクマネジメント）」と呼びます。

化学物質のリスク
どっちが大きい？



レベルアップ

環境リスク評価（リスクアセスメント）

化学物質が環境を經由して人の健康や動植物の生息又は生育に悪い影響を及ぼす可能性を評価することを、環境リスク評価（リスクアセスメント）と呼びます。

環境中に存在する化学物質の種類はとて多く、すべての化学物質について環境基準を設定するなどの対応をするのは大変なことです。そのため、川崎市は効率的かつ効果的な環境汚染対策を目的として、市内の環境リスク評価を実施しています。

しかし、個々の化学物質の有害性や環境濃度の情報は分からないことも多く、リスクを正確に把握することは難しいことです。したがって、川崎市ではリスク管理のひとつの目安としています。

レベルアップ

法律による規制

有害性が高い化学物質を製造、輸入する際は、「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）」による審査を受けなければなりません。その法律は、①環境中で簡単に分解せず、②生物の体内に蓄積しやすく、③有害性が高い性状をもつ化学物質について、リスクを考慮した規制を実施しています。

なお、人の体に使う医薬品は「薬事法」で、農作物に使う農薬は「農薬取締法」で、化学物質が正しく使われるよう規制されています。

レベルアップ

SDS 制度

化学物質を適切に管理するためには、その有害性や取扱いに関する情報が必要となります。

化学物質を他の事業者へ譲渡又は提供する際には、そのような情報を SDS(Safety Data Sheet : 安全データシート)として提供することが「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）^{*}」により定められており、この制度のことを SDS 制度といいます。

化学物質を取扱う事業者は、SDS の提供を受けることにより、必要な情報を入手し、化学物質の適切な管理に役立てることができます。

※ 化管法は、PRTR 制度と SDS 制度を 2 つの柱として、事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進することを目的とした法律です。



化学物質のリスクを避けることはできるの？

化学物質にはリスクはあるけれど、有益な性質をもつ化学物質を全く使わない社会にすることは不可能です。だから、リスクをゼロにすることはできないといわれています。
身の回りの化学物質のリスクと役割について考えてみましょう。

● 化学物質のリスクと役割

洗剤、殺菌剤、殺虫剤などを家庭で使うリスク

化学物質を自分の体の中にとりこんだり、周囲の環境を汚染したりするリスクがあります。

化学物質の役割

衛生的な生活を確保します。



農作物の栽培に使う農薬のリスク

田畑の周辺を汚染したり、作物といっしょに食べてしまったりするリスクがあります。

化学物質の役割

作物の収穫量を増やし、人々が食べるために必要な量の食物を確保します。

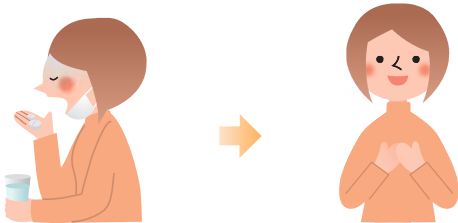


医薬品を使用するリスク

副作用により健康を害するリスクがあります。

化学物質の役割

病気やけがを治します。



これらの化学物質を製造するリスク

さまざまな製品を製造する工場から化学物質が排出され、環境を汚染するリスクがあります。

化学物質の役割

化学物質の優れた性質を利用したさまざまな製品を製造し、私たちの生活を便利にします。

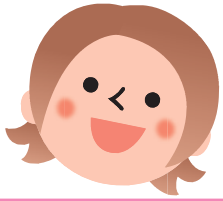


化学物質にはそれぞれ大切な役割があり、それを全く使わないで生活することは極めて難しいことです。大切なのは化学物質とうまく付き合いながら、リスクを少しでも小さくしていくことです。

レベルアップ

● **リスクとベネフィット(有益性)**
身の回りには、化学物質以外にもさまざまなリスクがあり、私たちはそれを受け入れることで、ベネフィット(有益性)を得ています。
例) 乗り物に乗ると、早く、遠くに、楽に移動することができる。(ベネフィット)
→ 交通事故のおそれがある。燃料を使うので、地球温暖化の原因にもなる。(リスク)

● **リスクのトレードオフ**
一方のリスクを小さくすると、他方のリスクが大きくなる場合があります。そのことを、リスクのトレードオフといいます。リスクをゼロにできない一つの原因でもあります。
例) 水道水を塩素消毒して、細菌によるリスクを小さくし、飲用に適した水にする。
→ 毒性の高いトリハロメタンが発生しやすくなる。



化学物質のリスクを減らすために、 私たちには何ができるの？（家庭編）

化学物質のリスクを小さくするためには、化学物質を製造する企業の努力は重要ですが、それだけでは限界があります。だから、化学物質を使用する私たち一人ひとりの心がけが大切です。

まずは身の回りのリスクを小さくする方法を考えてみましょう。

● 家庭の中で自分が受けるリスクと周辺に及ぼすリスクを小さくする行動

化学物質の使い方を工夫し、決められた使用方法を守ることによって、自分や周囲の人へのリスクを小さくすることができます。

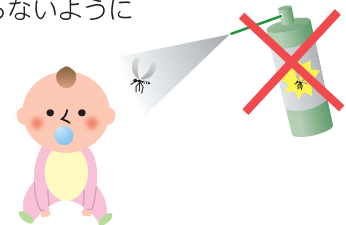
野菜を食べる前によく洗う。

野菜に残った農薬のリスクを小さくします。



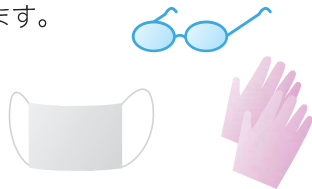
周囲に配慮する。

人の迷惑にならないように使用します。



保護具（メガネ、手袋、マスク）を使う。

目、手、口を守り、化学物質の暴露を減らします。



「まぜるな危険」の表示を守る。

有害性の高い化学物質の発生を防ぎます。



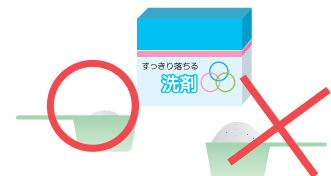
換気を十分にします。

化学物質を室外に排気し、暴露量を減らします。



適正な量で使用する。

必要以上の量を使用せず、自分や周囲の人の暴露量を減らし、環境への排出量を抑えます。



化学物質を含む製品のメーカーは安全性の試験を実施していますが、決められた使用方法を守らなければ、便利な化学物質も悪者になりかねません。

説明書をよく読んで、使用方法と注意事項を守ることが大切です。また、分からないことはメーカーや業界団体に問い合わせましょう。



化学物質のリスクを減らすために、 私たちには何ができるの？（社会編）

私たちは、社会のさまざまな場面で化学物質とかかわりを持っています。環境にやさしいライフスタイルで、社会全体の化学物質によるリスクを、少しでも小さくしていくよう心がけましょう。

● 社会全体のリスクを小さくする行動

環境にやさしい買い物をする。

- ・無駄なものは買わない。
- ・簡易包装、エコバッグを活用する。
- ・再生品を選ぶ。
- ・詰め替え式を選ぶ。
- ・長く使えるものを選ぶ。
- ・環境ラベル*付きの商品を選ぶ。
- ・旬のものを選ぶ。（生産エネルギーを減らす。）



製造や廃棄する時の排出によるリスクを小さくする。



- ・近くで生産されたものを選ぶ。（地産地消）



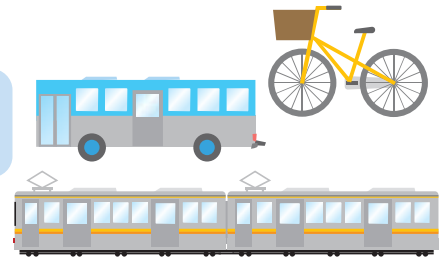
輸送（燃料の使用・排出ガス）によるリスクを小さくする。

捨てるときのルールを守る。

- ・ごみの分別を徹底してリサイクルに協力する。



焼却量を減らし、廃棄によるリスクを小さくする。

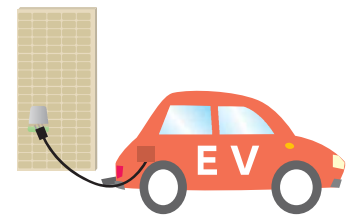


環境に配慮した移動手段を選択する。

- ・近場は徒歩か自転車で移動する。
- ・公共交通機関を利用する。
- ・エコドライブを実践する。
- ・エコカーに乗る。



燃料の製造や給油時などの排出及び排出ガスによるリスクを小さくする。



※環境ラベルの一例：エコマーク

環境保全に役立つと認められた商品に付けられ、“環境にやさしい暮らし”を願う人たちが、商品を選択しやすくなることを目的としています。

厳しい審査基準をクリアした商品にだけ付けられる環境のブランドマークです。



■問い合わせは、
（公財）日本環境協会エコマーク事務局
TEL 03 - 5643 - 6255

化学物質や環境に関する情報を収集し、環境にやさしいライフスタイルに関する知識を身につけることはとても重要です。しかし、難しい情報が多く、それを理解することはとてもたいへんなことです。

化学物質はさまざまな場面で使用されているので、環境に配慮した生活により、それぞれの場面で使用している化学物質を減らし、化学物質全体のリスクを小さくすることができます。

大切なのは、化学物質とうまく付き合う生活を、私たち一人ひとりがいつも心がけることです。

レベルアップ

●自然のものはエコ？

自然のものを選ぶことで、たしかに化学物質の製造は抑えられます。しかし、逆に森林伐採などの環境破壊が進むこともあります。

バランスのとれた持続可能な社会を目指すことが大切といわれています。

●3R

環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードです。

- ① Reduce (リデュース)…廃棄物の発生抑制
- ② Reuse (リユース)……再使用
- ③ Recycle (リサイクル)…再生利用

3Rを徹底し、製造量、廃棄量を減らすことで、その際に使用したり、発生したりする化学物質によるリスクを減らすことができます。



●リスクコミュニケーションについて

地域の事業所から排出される化学物質による環境リスクを低減するために、市民、事業者、行政にはそれぞれの役割があります。

また、市民一人ひとりの心がけも重要ですが、地域全体で取組を進めるためには、企業や行政に対して市民が不安や疑問に感じたことを問い合わせるなど、市民、事業者、行政の間でコミュニケーションを図ることも欠かせません。

化学物質に関する情報を、市民、事業者、行政のすべてが共有し、お互いに意思疎通を図ることを「リスクコミュニケーション」と呼んでいます。

リスクコミュニケーションにより、市民の不安・疑問が解消され、事業者は市民の意見を考慮したリスク管理が可能となります。行政は、それをサポートしていきます。

事業者の役割

- 法令の遵守
- 情報の収集・提供
- 市民意見・提案などの収集
- 会合の開催・参加
- 取組の推進・評価



市民の役割

- 生活によるリスクの低減
- 情報の収集
- 意見・提案
- 会合への参加
- 取組の評価

行政の役割

- 法令の遵守状況の確認
- 環境調査・リスク評価
- 情報の収集・提供
- 意見・提案などの収集
- 会合の開催・参加
- 取組の実施・評価

レベルアップ

環境サイトレポート

環境対策等の取組状況について、事業所単位で取りまとめたものを環境サイトレポートといいます。

市民は、環境サイトレポートにより地域の事業所内での様な事業活動が行われているか、環境負荷の低減のために事業者がどのようなことに取組んでいるかということ等を知ることができます。

川崎市は「環境サイトレポート作成の手引き」を作成し、事業者による環境サイトレポートの作成の支援を行っています。

私たちは普段から化学物質に接して生活しているのね。

健康への影響はどうかしら。正しい情報で理解しなくてはならないわね。

会社の周辺の住民がなにを知りたがっているのが気になります。住民に理解してもらうためにはコミュニケーションは必要だなあ。

近所の工場で何をやっているのか気になるので、調べてみようかな。

環境を汚しているのは工場だけじゃないのね。

私たちも、普段から使い方や捨て方に気を付けなければ。

分からないことがあったら、市役所や企業に問い合わせたり、本やインターネットで調べたりしてみよう。

memo

問い合わせ先

川崎市環境局環境対策部 地域環境共創課

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL : 044-200-2532 FAX : 044-200-3922



Colors, Future!
いるいるって、未来。

川崎市

平成30年3月発行